

政界流動化力ためたい

辻元前国交副大臣に聞く

鳩山首相の辞任の二因にもなった社民党の連立政権離脱。国土交通副大臣を辞任した辻元清美衆院議員（大阪10区）が朝日新聞のインタビュに応じた。

（聞き手・多知川節子）

——首相退陣をどう受け止めましたか。
鳩山さんには何回も直接、「辺野古に戻したら政権が崩壊しかねない」と申し上げてきたのにその選択をされた。「だから私言っていたやん」というのが本音です。連立解消にならないよう最後まで（出張中の）ヨーロッパから官邸などに働きかけたけれど、力不足を感じた。沖縄の皆さんに申し訳ないと思います。

——鳩山首相に思うことは。
一緒に辺野古反対の演説も回ったから、信じるやんか。

頑張ってくれてるって。それが最後に説明もなく辺野古に。それはないでって思うよね。初めて総理大臣で県外・国外を考えたいと言った功績は大

きい。でもその後、米国との交渉であらゆる手段を使って進めたように見えないんですよ。
——普天間問題はまだ解決していないと言われます。
辺野古に造るのは、今や一番困難な選択じゃないか。埋め立てには10トトラックで525万台分の土が要る。政治的にも物理的にも非常に困難。規模を縮小し、機能分散をもう一回考えた方がいい。

——自身は連立離脱に慎重



国交副大臣室から持ち出した資料を広げ、「切ないわあ」と笑顔を見せる辻元清美衆院議員＝東京都千代田区の衆院議員会館

と言われていました。

私は、最後まで政権に残って、辺野古問題を含め弱い立場の人の声を届けた方がいいという気持ちと、筋を通して政権から離れるべきだと思う気持ちと両方ありました。

——副大臣辞任の日に号泣してましたね。
国交省は大変やった。「コンクリートから人」への最前線で、公共事業予算を削り、ダムを見直し、JAL再建もあった。こじれてきたJR不採用問題の和解とかは、政権交代の成果やと思うんです。死にものぐるいでやってきたので、中断は無念ですよ。

——新政権での連立は。
国民生活はほんまに大変。

（政党が）反目し合っている、日本は立ちゆかなくなるさ。私は、民主党と敵対するのではなく、協力できるところはある、一線を画するところはある、やりたい。参院選後も政界は流動化すると思うので、少し充電というか、力をためたい。

——自らは社民党でやっていくことに変わりないか。
今回、大臣や副大臣を出せたのも、党として連立を組んだから。党としての立ち位置を考えなきゃと思うんです。

大阪

北摂

OSAKA

大阪本社社会グループ
06(6231)0131(代)
大阪版FAX
06(6201)3143
購読のお申し込みは
0120-33-0843
(7:00~21:00)
購読・配達のご用は
06(6227)0413
(平日10:00~18:00)
広告のご用は
朝日広告社
06(6205)6961
朝日エリア・アド
06(6221)2923
折り込みは
朝日オリコミ大阪
06(6226)1290